

○世界の穀物等の需給や短期の見通し等に関する情報の収集、分析及び情報発信

国際的な食料需給情報の収集・分析・発信

1. 海外の食料需給情報の収集・把握

- 食料需給動向 : 生産量、消費量、輸出入量、期末在庫量 等
- 構造的需給要因 : 人口、所得、バイオ燃料 等
- 国際価格の動向 : 主要先物市場・実物取引価格、食品価格 等
- 気象状況 : 気温、降水量、気象被害(干ばつ、豪雨等)等
- 流通状況 : 港湾利用に関する情報、輸出業者に関する情報 等(拡充)
- その他 : 品目別の我が国の調達、各国の政策・制度等に関連する情報 等



観測衛星「しずく」

2. 収集した情報に基づき食料需給動向を分析・予測

- 食料需給動向と今後の見通し
- 国際価格の動向
- 構造的需給影響要因
- 気象状況 等



3. 国民にわかりやすく情報発信

- 海外食料需給レポート(月報・年報)
- 世界の穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移(毎月)
- 穀物等の国際価格の動向(毎週)
- フェイスブック「食料需給インフォメーション」、メールマガジン等



海外食料需給レポート

(Monthly Report: 10月)



平成29年10月31日

農林水産省

目 次

【利用上の注意】

概要編

1 2017/18年度の国際的な穀物需給の概要	1
2 2017/18年度の国際的な油糧種子需給の概要	2
(資料)	
1 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	3
2 穀物等の国際価格の動向	4
3 平成29年3月以降の食品小売価格の動向	5
4 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量	6
5 世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量	7
6 世界の大豆生産量と輸出量/日本の輸入量	8
7 農産物の輸出規制の現状	9

品目別需給編

I 穀物	
1 小麦	
(1) 国際的な小麦需給の概要	1
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア 米国	2
イ カナダ	3
ウ 豪州	4
エ EU	5
オ 中国	6
カ インド	6
キ ロシア	7
ク ウクライナ	8
ケ カザフスタン	9
コ アルゼンチン	10
2 とうもろこし	
(1) 国際的なとうもろこし需給の概要	11
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア 米国	12
イ 中国	14
ウ アルゼンチン	15
エ ブラジル	16
オ EU	17
カ ウクライナ	17
3 大麦	
(1) 国際的な大麦需給の概要	18

(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア 豪州	19
イ カナダ	19
ウ EU	19
エ ロシア	19
4 米	
(1) 国際的な米需給の概要	20
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア インド	21
イ タイ	22
ウ ベトナム	23
エ インドネシア	24
オ 中国	25
カ 米国	26
キ ブラジル	27
ク 豪州	27
II 油糧種子	
1 大豆	
(1) 国際的な大豆需給の概要	28
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア 米国	29
イ ブラジル	30
ウ アルゼンチン	31
エ カナダ	32
オ 中国	32
2 なたね	
(1) 国際的ななたね需給の概要	33
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況	
ア カナダ	34
イ 豪州	35
ウ ウクライナ	35
エ EU	36
オ 中国	36

今月のトピックス

・米国における穀物輸送事情	1
---------------	---

表紙の写真：中国 黒龍江省デチハル市甘南県
 水稻の収穫作業（2017年10月6日撮影）

概要編

1 2017/18年度の国際的な穀物需給の概要
 <米国農務省の見通し>

○2017/18年度の穀物需給（予測）のポイント

穀物全体の生産量は前年度より減少して25.5億トンとなり、消費量25.7億トンを下回る見込み。
 この結果、期末在庫量は前年度に比べ減少し、期末在庫率も24.8%と低下する見込み。

【生産量】 2017/18年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界の穀物全体の生産量は、とうもろこし、小麦、米、大麦ともに減少し、史上最高となった前年度を下回る見込み。
 品目別には、小麦は、ロシア、インド、EU等で増加するものの、米国、豪州、カナダで減少することから、世界全体では史上最高となった前年度を下回る見込み。とうもろこしは、アルゼンチンで増加するものの、米国、中国、ブラジル等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。大麦は、ロシア、トルコ等で増加するものの、豪州、カナダ等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。米は、タイ、ベトナム等で増加するものの、パングラデシュ、中国等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。

【消費量】 2017/18年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界の穀物全体の消費量は、大麦等で減少し、世界全体では史上最高となった前年度を下回る見込み。
 品目別には、小麦は、中国等で減少するものの、ロシア、インド等で増加が見込まれることから、世界全体では史上最高となる見込み。とうもろこしは、中国、米国等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度を上回る見込み。大麦は、ロシア等で増加するものの、EU、中国等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。米は、中国、インド等で増加するものの、インドネシア等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。

【貿易量】 2017/18年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界の穀物全体の貿易量は、小麦、とうもろこし、大麦、米ともに減少し、4.1億トンと前年度を下回る見込み。
 品目別には、小麦は、豪州、米国等での減少、とうもろこしは、米国等での減少、大麦は、豪州等での減少、米はタイ、米国等での減少によりそれぞれ前年度を下回る見込み。

【期末在庫量】 2017/18年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから6.4億トンと前年度に比べ減少し、期末在庫率も24.8%と前年度に比べ低下する見込み。

表－1 世界の穀物需給

年 度	2015/16	2016/17 (見込み)	2017/18		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2,467.5	2,608.2	2,554.3	9.6	▲ 2.1
小麦	735.3	754.2	751.2	6.3	▲ 0.4
粗粒穀物	1,259.6	1,366.9	1,319.4	2.8	▲ 3.5
(とうもろこし)	972.4	1,075.3	1,038.8	6.2	▲ 3.4
(大 麦)	149.6	148.0	142.0	0.1	▲ 4.1
米	472.6	487.1	483.8	0.4	▲ 0.7
消費量	2,435.0	2,576.1	2,572.3	6.8	▲ 0.1
小麦	711.8	738.8	739.6	2.1	0.1
粗粒穀物	1,255.0	1,356.4	1,352.2	4.4	▲ 0.3
(とうもろこし)	967.9	1,062.3	1,064.8	7.7	0.2
(大 麦)	147.6	150.1	147.4	▲ 0.2	▲ 1.8
米	468.2	481.0	480.5	0.3	▲ 0.1
うち、 飼料用	904.0	949.4	956.8	0.6	0.8
小麦	136.4	147.3	141.5	0.9	▲ 3.9
粗粒穀物	767.6	802.2	815.3	▲ 0.3	1.6
(とうもろこし)	601.6	632.5	650.5	0.2	2.8
(大 麦)	100.8	106.2	102.5	▲ 0.1	▲ 3.5
米
貿易量	376.5	429.8	410.0	0.1	▲ 4.6
小麦	172.8	182.5	180.0	0.0	▲ 1.3
粗粒穀物	163.4	202.7	185.8	0.2	▲ 8.4
(とうもろこし)	119.7	163.8	150.7	0.1	▲ 8.0
(大 麦)	30.8	28.7	25.1	0.0	▲ 12.6
米	40.3	44.6	44.2	▲ 0.0	▲ 1.0
期末在庫量	624.8	656.9	638.9	22.0	▲ 2.7
小麦	241.2	256.6	268.1	5.0	4.5
粗粒穀物	251.6	262.1	229.3	▲ 1.0	▲ 12.5
(とうもろこし)	214.0	227.0	201.0	▲ 1.5	▲ 11.5
(大 麦)	26.4	24.4	19.0	0.4	▲ 22.1
米	132.0	138.2	141.5	18.0	2.4
期末在庫率	25.7%	25.5%	24.8%	0.8	▲ 0.7
小麦	33.9%	34.7%	36.3%	0.6	1.5
粗粒穀物	20.0%	19.3%	17.0%	▲ 0.1	▲ 2.4
(とうもろこし)	22.1%	21.4%	18.9%	▲ 0.3	▲ 2.5
(大 麦)	17.9%	16.3%	12.9%	0.3	▲ 3.4
米	28.2%	28.7%	29.5%	3.7	0.7

資料：USDA (World Agricultural Supply and Demand Estimates) 、
 「Grain: World Markets and Trade」、(PSAD) (12 October 2017)
 注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び
 前年度とのポイント差である。

2 2017/18年度の国際的な油糧種子需給の概要
 <米国農務省の見通し>

○2017/18年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は、前年度より増加して5.77億トンとなり、消費量5.74億トンをわずかに上回る見込み。
 この結果、期末在庫量は前年度に比べ増加するものの、期末在庫率は18.8%に低下する見込み。

【生産量】 2017/18年度 前年度比 ↑ 前月比 ↓

世界の油糧種子全体の生産量は、大豆で減少するものの、なたね、綿実等の増加により、前年度を上回る見込み。
 品目別には、大豆は、米国、カナダ、中国で増加するものの、ブラジル、インド等で減少することから、世界全体では前年度を下回る見込み。なたねは、豪州、中国等で減少するものの、EU、ウクライナ等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度を上回る見込み。

【消費量】 2017/18年度 前年度比 ↑ 前月比 ↓

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要から、前年度を上回る見込み。
 品目別には、大豆は、中国、米国等で増加することから、世界全体では前年度を上回り、史上最高となる見込み。なたねは、中国、インド等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度を上回る見込み。

【貿易量】 2017/18年度 前年度比 ↑ 前月比 ↓

世界の油糧種子全体の貿易量は、前年度を上回り1.7億トンとなる見込み。
 品目別には、大豆は、米国、カナダ等で増加することから、世界全体では前年度を上回る見込み。なたねは、ウクライナ、EU等で増加するものの、豪州、カナダ等で減少することから、世界全体では前年度を下回る見込み。

【期末在庫量】 2017/18年度 前年度比 ↑ 前月比 ↓

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから1.1億トンと前年度に比べ増加するものの、期末在庫率は18.8%と前年度に比べ低下する見込み。

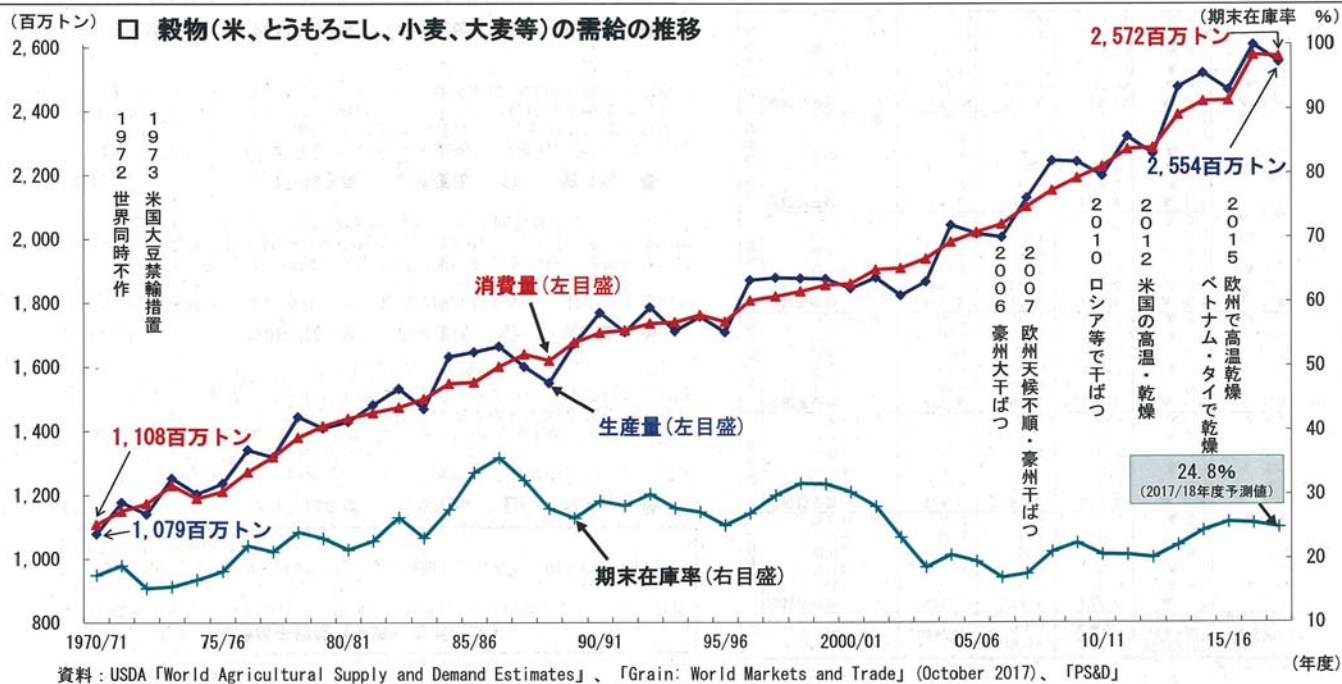
表－2 世界の油糧種子需給

年 度	2015/16	2016/17 (見込み)	2017/18		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	521.4	573.1	577.0	▲ 1.6	0.7
うち、大豆	313.7	351.3	347.9	▲ 0.6	▲ 1.0
なたね	69.9	70.3	71.9	▲ 0.3	2.2
綿実	35.8	39.0	44.3	0.1	13.5
ピーナッツ	40.4	42.6	43.0	0.1	0.9
ひまわり種	40.3	47.6	46.4	▲ 1.1	▲ 2.6
消費量	524.6	551.8	573.5	▲ 0.8	3.9
うち、大豆	314.4	330.3	344.4	0.1	4.3
なたね	70.8	71.6	72.9	▲ 0.4	1.9
綿実	36.5	38.7	43.7	0.3	13.1
ピーナッツ	40.9	42.2	42.4	▲ 0.2	0.5
ひまわり種	40.7	47.0	46.6	▲ 0.5	▲ 0.8
うち、 搾油用	445.6	469.3	488.1	▲ 0.8	4.0
うち、大豆	274.9	288.4	301.3	0.6	4.5
なたね	67.8	68.6	69.9	▲ 0.4	1.8
綿実	28.4	29.2	33.0	0.1	13.2
ピーナッツ	16.8	18.1	18.1	▲ 0.1	0.1
ひまわり種	36.7	43.1	42.7	▲ 0.6	▲ 1.0
貿易量	153.3	170.9	173.9	▲ 0.4	1.8
うち、大豆	132.5	147.5	151.0	▲ 0.4	2.4
なたね	14.4	16.0	16.0	0.3	▲ 0.1
綿実	0.7	0.9	1.0	▲ 0.1	10.6
ピーナッツ	3.5	3.8	3.7	0.0	▲ 1.6
ひまわり種	2.0	2.5	2.0	▲ 0.2	▲ 19.4
期末在庫量	90.5	107.3	107.9	▲ 1.6	0.5
うち、大豆	77.7	94.9	96.1	▲ 1.5	1.3
なたね	6.8	5.9	5.0	▲ 0.1	▲ 15.1
綿実	0.9	1.3	1.8	▲ 0.1	37.3
ピーナッツ	2.5	2.3	2.4	0.2	3.9
ひまわり種	2.3	2.6	2.2	▲ 0.1	▲ 14.9
期末在庫率	17.3%	19.4%	18.8%	▲ 0.2	▲ 0.6
うち、大豆	24.7%	28.7%	27.9%	▲ 0.4	▲ 0.8
なたね	9.6%	8.2%	6.8%	▲ 0.0	▲ 1.4
綿実	2.5%	3.5%	4.2%	0.0	0.7
ピーナッツ	6.2%	5.4%	5.6%	0.4	0.2
ひまわり種	5.6%	5.6%	4.8%	▲ 0.2	▲ 0.8

資料：USDA (World Agricultural Supply and Demand Estimates) 、
 「Oilseeds: World Markets and Trade」、(PSAD) (12 October 2017)
 注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び
 前年度とのポイント差である。

資料 1 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

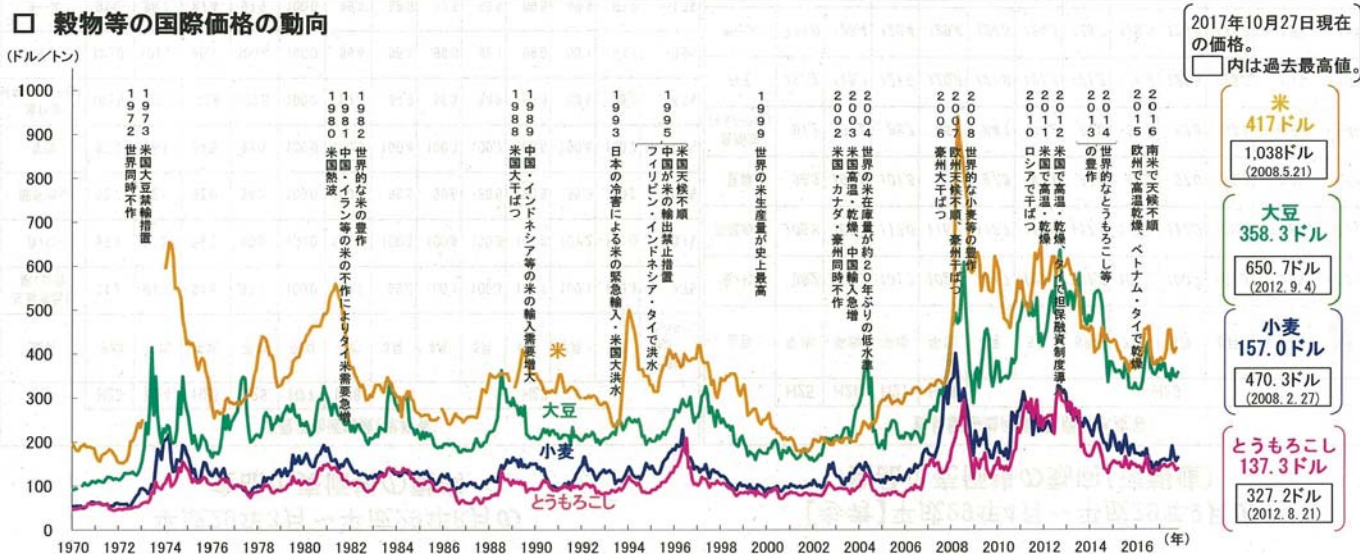
- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い、1970/71年度に比べ2.3倍の水準に増加している。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2017/18年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回ることから、24.8%と2016/17年度(25.5%)を下回る見込み。



- 3 -

資料2 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- 2012年6月以降の米国の高湿・乾燥の影響から、とうもろこしは8月に史上最高値(327.2ドル/トン)、大豆は9月に史上最高値(650.7ドル/トン)。また小麦も、とうもろこしに追従して上昇。2013年7月以降、世界的なとうもろこし等の豊作や南米での大豆の増産等から低下。2016年4月以降、南米での天候不順から、大豆が一時上昇。2017年6月以降、米国大平原北部の高湿・乾燥から、小麦が一時上昇。
- 米は、タイでの担保融資制度の再導入の動き等により、2011年6月以降上昇していたが、2013年7月以降、安価なインド産等への輸出需要のシフトやタイで担保融資制度見直しによる政府在庫放出等から低下。2015年10月以降、ベトナム、タイ等主要国での乾燥等による供給懸念から一時上昇。2017年5月以降、アジア・中東諸国等の輸入需要から再び一時上昇。



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格である。米は、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、米はタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、米以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料3 平成29年3月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

平成29年3月～平成29年8月の
食品小売価格の動向

消費者物価指数(総務省)														
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29							
品目	平均	平均	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	上昇率 (前年 同月比)	
生鮮食品を 除く総合	94.7	94.7	94.5	97.7	100.0	99.7	99.8	100.1	100.3	100.2	100.1	100.3	0.7	
食パン	97.3	97.2	96.3	98.5	100.0	101.1	100.8	100.8	100.9	101.2	101.2	101.0	0.1	
即席めん	92.7	92.5	92.0	94.2	100.0	100.0	99.5	99.6	98.9	99.9	99.9	100.2	0.6	
豆腐	97.6	96.1	94.5	98.0	100.0	100.0	100.4	100.3	100.7	100.6	100.6	100.7	0.9	
食用油 (キャノーラ油)	102.5	102.1	102.6	102.8	100.0	97.8	94.9	96.3	94.9	93.3	93.5	93.2	-4.3	
みそ	103.0	101.7	99.7	100.6	100.0	99.4	98.8	99.6	99.1	99.0	99.1	98.7	-0.9	
チーズ	91.0	88.7	87.4	97.9	100.0	99.3	98.5	97.5	95.9	99.5	99.9	98.9	-1.5	
バター	87.4	89.9	90.9	95.0	100.0	101.5	101.3	101.3	101.5	101.9	102.1	102.0	0.2	
マヨネーズ	93.1	91.9	95.0	103.5	100.0	98.1	96.9	97.2	95.5	97.7	96.0	95.5	-2.3	

資料:総務省消費者物価指数

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

【参考】平成29年4月～平成29年9月の
食品小売価格の動向(速報値)

食品価格動向調査(農林水産省)													
	H25	H26	H27	H28	H29								
品目	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	96.2	99.3	101.7	102.6	101.7	101.1	101.4	101.2	100.7	101.3	0.6%	-0.8%	
即席めん	106.6	109.1	117.0	116.7	116.7	116.0	117.1	117.1	117.0	116.3	-0.6%	-0.2%	
豆腐	99.3	101.9	101.6	98.4	97.3	97.1	97.0	96.7	97.0	96.9	-0.1%	-1.6%	
食用油 (キャノーラ油)	91.2	91.2	88.7	85.2	84.1	84.2	84.0	84.2	83.8	83.1	-0.8%	-2.4%	
みそ	117.2	119.7	121.0	120.8	121.9	121.7	121.2	121.7	121.6	123.3	1.4%	2.3%	
チーズ	111.0	125.4	129.4	129.4	124.5	124.5	128.7	129.5	129.5	131.9	1.9%	1.5%	
バター	107.6	112.0	118.4	120.0	119.7	120.7	121.1	121.3	121.3	121.4	0.1%	1.3%	
マヨネーズ	103.7	112.2	110.6	109.8	110.5	108.5	108.6	108.0	108.2	109.2	0.9%	-0.7%	

資料:農林水産省加工食品小売価格調査

注1:平成20年1月の価格を100とした指数で表記している。ただし、バターについては平成20年5月の価格を100とした指数で表記している。

注2:調査は原則、各都道府県10店舗で毎週実施。

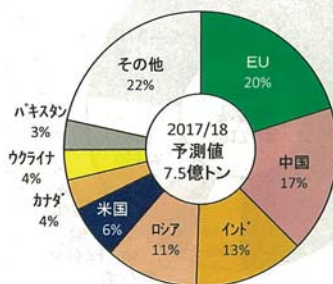
注3:調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4:マヨネーズのH24平均値は調査を開始した平成24年10月～12月平均。

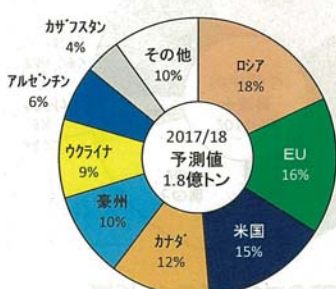
- 5 -

資料4 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量(2017年10月現在)

世界の小麦生産量

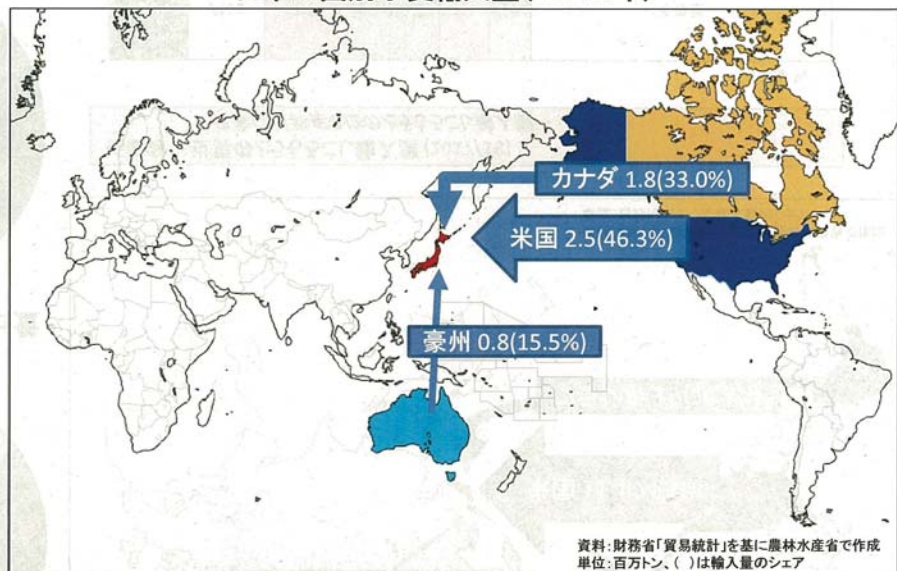


世界の小麦輸出量



資料:USDA「PS&D」2017.10

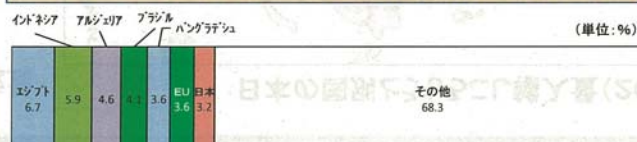
日本の国別小麦輸入量(2016年)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成
単位:百万トン、()は輸入量のシェア

<参考>世界の小麦輸入国 (2017/18)

—世界輸入量全体の3割を上位7カ国が、残る7割を117カ国が占める—

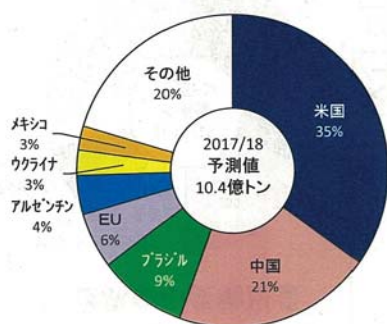


日本の小麦生産量
2014年: 85.2万トン
2015年: 100.4万トン
2016年: 79.1万トン
(資料:農林水産統計)

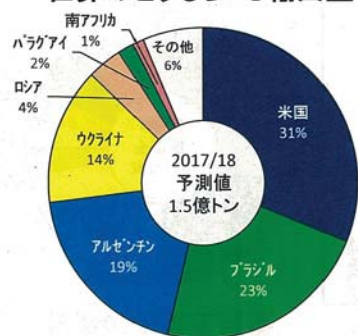
- 6 -

資料5 世界のとうもろこし生産量と輸出入/日本の輸入量(2017年10月現在)

世界のとうもろこし生産量

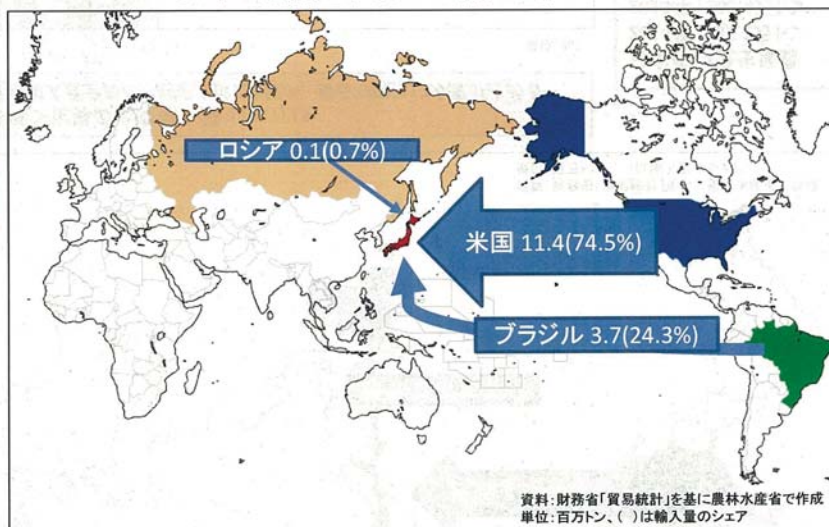


世界のとうもろこし輸出入



資料:USDA「PS&D」2017.10

日本の国別とうもろこし輸入量(2016年)



<参考>世界のとうもろこし輸入国(2017/18)

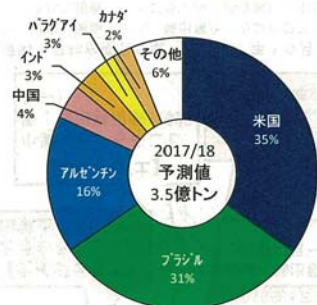
—日本は世界第3位のとうもろこし輸入国—



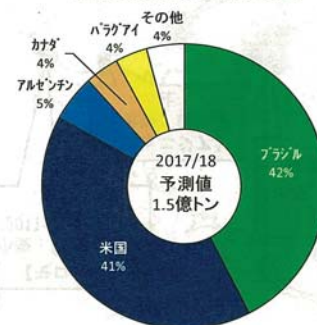
- 7 -

資料6 世界の大豆生産量と輸出入/日本の輸入量(2017年10月現在)

世界の大豆生産量

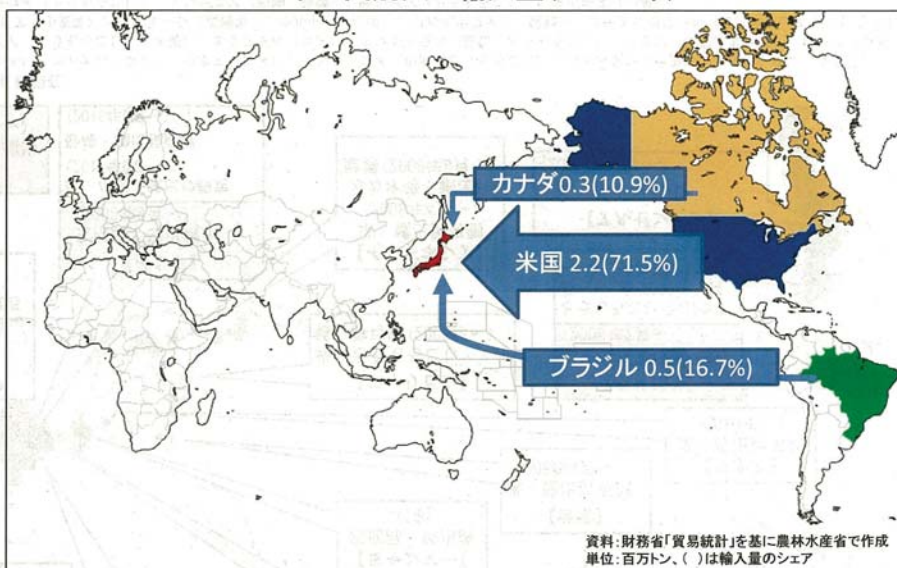


世界の大豆輸出入



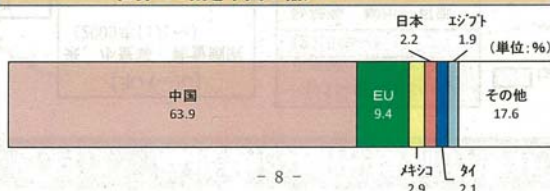
資料:USDA「PS&D」2017.10

日本の国別大豆輸入量(2016年)



<参考>世界の大豆輸入国(2017/18)

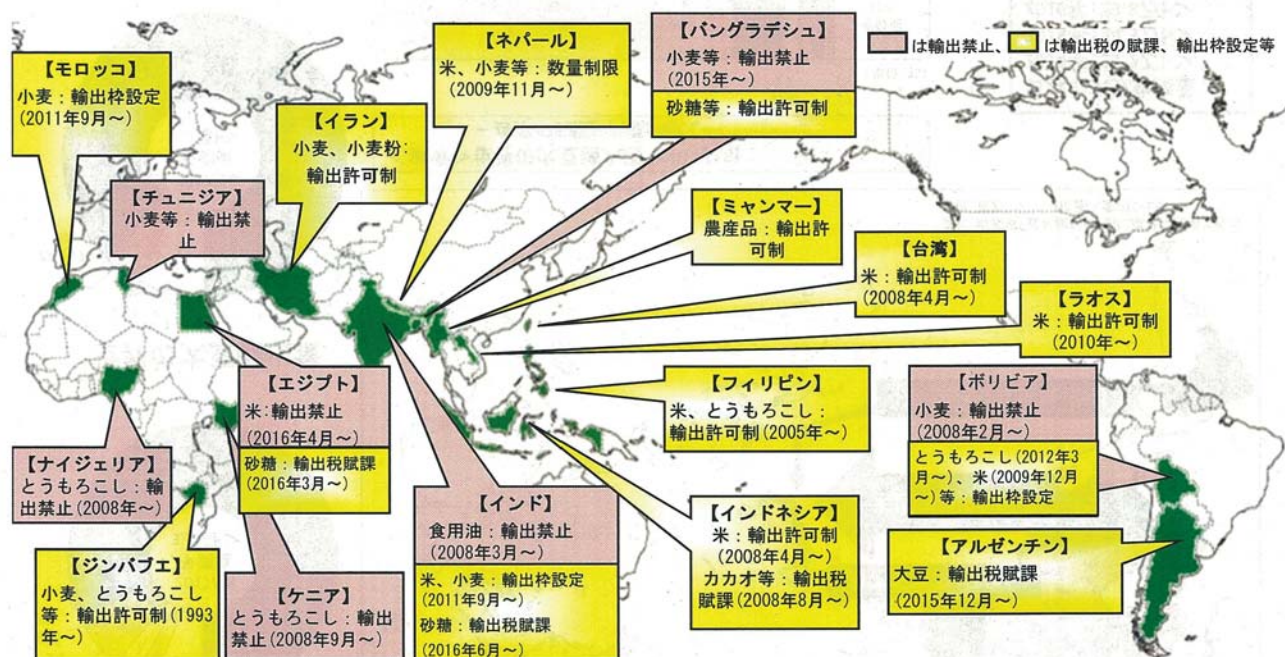
—世界の6割を中国が輸入—



日本の大豆生産量
2014年:23.2万トン
2015年:24.3万トン
2016年:23.8万トン
(資料:農林水産統計)

- 8 -

資料7 農産物の輸出規制の現状



資料：農林水産省作成（2017年10月16日現在）

注：過去に実施された措置

① 輸出禁止：カンボジア（コメ）、ベトナム（コメ）、ラオス（コメ）、インド（コメ、小麦、とうもろこし）、パキスタン（小麦）、アルゼンチン（小麦等）、ブラジル（政府米）、ボリビア（とうもろこし、コメ等）、エクアドル（コメ）、ホンジュラス（豆類、とうもろこし）、イラン（砂糖、大麦等）、ロシア（小麦等）、カザフスタン（小麦）、セルビア（小麦等）、ベラルーシ（菜種等）、モルドバ（小麦）、ブルキナファソ（穀物）、コートジボワール（カカオ）、エチオピア（小麦等）

② 輸出税賦課：ロシア（小麦、大麦）、ウクライナ（小麦等）、ベトナム（コメ）、キルギス（小麦等）、中国（小麦、大豆、コメ等）、アルゼンチン（小麦、とうもろこし等）、イラン（米等）

③ 輸出枠：カンボジア（コメ）、ウクライナ（小麦、大麦等）、アルゼンチン（小麦、とうもろこし等）